

科目名	憲法	担当教員	鎌田 晋
科目コード	310001	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 外国人の人権(14頁～25頁) | 9 天皇(148頁～157頁) |
| 2 プライバシー権(26頁～35頁) | 10 平和主義(158頁～167頁) |
| 3 自己決定権(36頁～47頁) | 11 国会(168頁～187頁) |
| 4 法の下での平等(62頁～71頁) | 12 内閣(188頁～199頁) |
| 5 信教の自由(72頁～81頁) | 13 裁判所(200頁～211頁) |
| 6 表現の自由(82頁～103頁) | 14 司法審査制(212頁～221頁) |
| 7 営業の自由(104頁～113頁) | 15 地方自治(222頁～231頁) |
| 8 生存権(114頁～125頁) | |

【科目試験対策ポイント1】営業の自由に対する消極的規制と積極的規制について

- ① 教科書の「10 銭湯の楽しみー営業の自由」(104頁～112頁)を読む。
- ② 2つの最高裁判例(①最高裁判所昭和30年1月26日判決、②最高裁判所平成元年1月20日判決)の違いを説明する。
- ③ 以下の3つの論点につき、上記最高裁判例を踏まえて説明する。
 論点1:日本国憲法は営業の自由を保障しているか。
 論点2:営業の自由に対する消極的規制とはどのような規制か。
 論点3:営業の自由に対する積極的規制とはどのような規制か。

【試験対策ポイント2】現行の公職選挙法について

- ① 教科書の「2 欲しいのはまず選挙権ー外国人の権利」(14頁～23頁)を読む。
- ② 最高判例(最高裁判所平成7年2月28日判決)を説明する。
- ③ 以下の3つの論点につき、上記最高裁判例を踏まえて自らの考えを述べる。
 論点1:日本国憲法は外国人の人権(特に参政権)を保障しているか。
 論点2:定住外国人に国政レベルの選挙権を認めることは日本国憲法上許されるか。
 論点3:定住外国人に地方レベルの選挙権を認めることは日本国憲法上許されるか。

授業終了時の達成目標

- 1 立憲主義の意義及び日本国憲法の基本原理を理解する。
- 2 日本国憲法における人権保障と統治機構の概要を理解する。
- 3 現実に生じる憲法問題について、自分で考え、一定の結論を出せるようにする。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
いちばんやさしい憲法入門 第6版	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	情報リテラシーと処理技術 I	担当教員	大城 貴博
科目コード	310002	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。

テキストを通じパソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習し、実践に繋げていく

授業終了時の達成目標

情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。

《学習成果》

レポート:コンピュータの仕組みとハードウェア・ソフトウェアについて学ぶ

科目試験:コンピュータを利用することをより具体的な課題にして実習への理解を深める

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
よくわかる情報リテラシー 改訂新版 コンピュータと情報システム第2班(サイエンス社) ネット検索にて、参考資料を収集してください	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	情報リテラシーと処理技術Ⅱ	担当教員	大城 貴博
科目コード	310003	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	選択

授業概要 / 試験対策ポイント

テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。

テキストを通じパソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習し、実践に繋げていく

授業終了時の達成目標

情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます

《学習成果》

レポート:IoT機器への不正アクセスと被害について理解し、適切な管理ができるようになる。

科目試験:「ネットワーク社会の概要」「情報セキュリティ」「アナログ信号のデジタル化」について理解し効果的に活用できるようになる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
よくわかる情報リテラシー 改訂新版 情報セキュリティ10 大脅威 2019	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	英語コミュニケーション I	担当教員	宮里 幸子
科目コード	310004	授業形態	印刷
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要（テキストによる通信教育）

〈Pre-unit〉

Unit1:自己紹介

Unit2:場所の案内

Unit3:あいさつ

Unit4:好きなもの(こと)を尋ねる

Unit5:ものがある場所を指す表現

Unit6:遊び

Unit7:食

Unit8:トイレ

Unit9:一日の活動報告

Unit10:行事予定

Unit11:保育計画

Unit12:体調不良

Unit13:保護者へ電話をかける

Unit14:お別れとお礼

*英語で読む日本昔話、英語の唄

試験対策：太字の Unit をよく学習しましょう。特に英作（並べ替え英作や部分英作を含む）と保育現場にある物の名前をしっかりと勉強しましょう。次の2つの Unit では、以下のことも勉強しておきましょう。Unit 2:園内の場所を尋ねられた時、その場所への行き方を英語で説明する。Unit12:身体の部位についてしっかりと覚えましょう。

授業終了時の達成目標

1. 「日本語はわからないが英語は話せる親子」を受け持つことになったと想定し、保育現場に必要な英語表現を学ぶ。

(今はスマホに向けて日本語を喋れば、スマホが英訳をしてくれる時代です。外国人の保護者との会話はスマホが助けてくれるかもしれませんが。一方、子どもには直接英語で話しかけるのが一番です。現場で咄嗟の一言が出せるよう、保育に役立ちそうな表現を意識的にテキストから学んでください。)

2. 音声ファイル(ダウンロード)を活用し、英語の音に馴染む。

3.1と2を通し、自ら進んで英語でコミュニケーションを取ろうとする積極性を養う。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
Happy English for Childcare (KINSEIDO)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	
*解答は学校にて閲覧。テキストを解いていること。			

科目名	健康科学	担当教員	當眞 千晶
科目コード	310005	授業形態	印刷
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

健康とは何か、世界保健機関 WHO の憲章の前文によれば、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされている状態にあること」と定義されている。この定義に沿って、現代社会における健康の現状と課題について理解を深める。

【試験対策ポイント】

- ① 健康とは何か、②健康に対する運動の効果、③健康寿命とは何か、④ストレスと健康について

テキストを中心に、健康に関する用語を確認し、理解する。単に説明が箇条書きにならないようにする。

※テキストを熟読の上、試験に臨むこと。

(自分の知識の範囲内だけの記述にならないように留意する)

授業終了時の達成目標

1. 現代の健康問題について理解する。
2. 運動と身体の健康について理解する。
3. 運動と心の健康について理解する。
4. 健康観と健康に関する社会のしくみについて理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト健康科学 改定2版 (南江堂)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	保育のスポーツ	担当教員	手登根 雄次
科目コード	310006	授業形態	実技
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

【講義】

- ・運動における発達課題とアセスメント(評価)について
- ・現代における運動についての考え方
- ・運動プログラム作成の工夫
- ・障がい児に対する運動の考え方
- ・運動時におけるコミュニケーション方法
- ・運動時などにおけるリスクマネジメントについて

【実技】

- ・準備運動
- ・卓球
- ・ドッチボール
- ・サッカー
- ・創作運動
- ・クールダウン
- ・ストレッチ

授業終了時の達成目標

- ・運動の楽しさを理解し、相手に伝える・教える視点を理解する。
- ・運動を通して、健康・発達に対する意識を高める
- ・運動を創作していく考え方と視点を理解する。
- ・現代の運動に対する流れを把握し、リスクマネジメントについて理解する

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	スクーリング	100.0%	

科目名	保育原理	担当教員	仲宗根 由美
科目コード	310007	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

<授業内容>

*保育の意義を理解し、保育の基本的知識、思想や歴史、制度、内容と計画、方法など学ぶ

1. 保育の意義と目的

子どもの最善の利益と保育について

保育園が果たす社会的な意義や役割

2. 幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園など子育て支援新制度の趣旨と概要

幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園の相違点と共通点

3. 保育の基本・目標と内容

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について知る

・養護と教育の一体性 ・環境を通して行う保育・教育 ・保護者との連携(乳児保育)、保育の専門性

4. 保育の思想と歴史

・諸外国の保育、日本の保育

5. 保育の現状と課題

・諸外国、日本の保育問題と課題を考える

【試験対策ポイント1】

子どもの権利条件を理解しましょう。

4つの柱の権利名とその内容を把握しましょう。

【試験対策ポイント2】

テキストを第5講～11講を熟読し内容を理解する

「子どもの理解の視点」を理解し、自らの子ども理解について考察する

授業終了時の達成目標

*保育に意義や目的について理解する

*保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こどもの基本的な保育内容や相違点、共通点を理解する

*目標、内容、保育の専門性を理解する

*保育の歴史と現状について理解する

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ① 保育原理 (中央法規出版)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	教育原理	担当教員	宮川 名子
科目コード	310008	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

保育・幼児教育における「教育」の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、保育者に相応しい教育観を養うことを目的とする。また、今日における幼児教育の課題について様々な視点から思考し、解決に向かおうとする態度を養う。

- | | | |
|--------------|----------------|---------------|
| 1. 教育とはなにか | 6. 諸外国の教育の思想 | 11. 小学校以降の教育 |
| 2. 子ども観の変遷 | 7. 日本の教育の思想 | 12. 教育実践の基礎理論 |
| 3. 教育と発達 | 8. 諸外国の教育制度 | 13. 多様な教育実践 |
| 4. 諸外国の教育の歴史 | 9. 日本の教育制度 | 14. 生涯学習社会と教育 |
| 5. 日本の教育の歴史 | 10. 乳幼児期の教育・保育 | 15. 現代の教育課題 |

授業修了時の達成目標

教育の本質とは何かについて自分のことばで説明でき、自分なりの考えを持つことができる。

【試験対策のポイント】

試験は、十分な分量となるようにし、テキスト第6章「諸外国の教育の思想」、テキスト第13章「多様な教育実践」、テキスト第7章「日本の教育の思想」を特に熟読しましょう。また教育に関するニュースや新聞などにも十分目を通し、自分の考えを述べられるようにしておくことも重要です。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ② 教育原理 (中央法規出版) 実践につなぐ教育原理(みらい)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こども家庭福祉	担当教員	比嘉 暢哉
科目コード	310009	授業形態	印刷
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要（テキストによる通信教育）／ 試験対策ポイント

【科目のねらい】

児童福祉法第1条に「全て児童は、児童の権利に関する条約にのっとり、適切に養育されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保障される権利を有する」とある。児童の権利に関する条約には、「子どもの最善の利益」「意見表明権」などがあり、子どもは受動的な存在ではなく、能動的な存在としてとらえる必要があることを理解する。

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1. 子ども家庭福祉の理念と概念 | 9. 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 |
| 2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向 | 10. 貧困家庭、諸外国籍の子どもとその家庭への対応 |
| 3. 子どもの人権擁護 | 11. 社会的養護 |
| 4. 子ども家庭福祉の制度と実施体制 | 12. 障害のある子どもへの対応 |
| 5. 子ども家庭福祉の施設と専門職 | 13. 少年非行等への対応 |
| 6. 少子化と地域子育て支援 | 14. 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 |
| 7. 母子保健と子どもの健全育成 | 15. 地域における連携・協働とネットワーク |
| 8. 多様な保育ニーズへの対応 | |

【試験対策ポイント1】

○子どもの人権擁護の歴史、児童の権利に関する条約などをふまえて説明してください。

○子どもを「能動的な存在」としてとらえ、守るべきことについて説明してください。

【試験対策ポイント2】

○障害児支援の背景、ポイント、チームアプローチモデル、これからの障害児支援をふまえて説明してください。

○ノーマライゼーションの理念について説明してください。

授業修了時の達成目標

○子どもの人権擁護について説明できる。

○子ども家庭福祉の制度と実施体制について説明できる。

○子どもを取り巻く環境について説明できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉 (中央法規出版)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	社会福祉	担当教員	比嘉 暢哉
科目コード	310010	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷
 (1) 社会福祉の理念と概念 (2) 社会福祉の歴史の変遷 (3) 子ども家庭支援と社会福祉
2. 社会福祉の制度と実施体系
 (1) 社会福祉の制度と法体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関 (3) 社会福祉施設
 (4) 社会福祉の専門職 (5) 社会保障及び関連制度の概要
3. 社会福祉における相談援助
 (1) 相談援助の理論 (2) 相談援助の意義と機能 (3) 相談援助の対象と過程 (4) 相談援助の方法と技術
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み
 (1) 情報提供と第三者評価 (2) 利用者の権利擁護と苦情解決
5. 社会福祉の動向と課題
 (1) 少子高齢化社会における子育て支援 (2) 共生社会の実現と障害者施策
 (3) 在宅福祉・地域福祉の推進 (4) 諸外国の動向

【試験対策ポイント1】

1. 沖縄県における子育て家庭(乳幼児がいる家庭)が抱える課題を押さえてください。なお、沖縄県内の市町村に特化してもよい。
2. その課題の詳しい数値を押さえてください。なお、沖縄県内の市町村に特化してもよい。
3. あなたの身近(家庭、近隣、仕事場など)で起きた出来事(家庭の支援が必要と思った事例など)があれば、そのエピソードを取り上げて述べてもよい。

<参考文献>

・新・基本保育シリーズ 社会福祉(中央法規出版) ・沖縄県および各市町村のホームページ等

【試験対策ポイント2】

1. 「相談援助」の方法や技術を押さえてください。
2. 「相談援助」の視点の基盤となるモデルや強みを押さえてください。
3. あなたの身近(家庭、近隣、仕事場など)で起きた出来事(保育士が相談援助を行う際の視点や強みなど)があれば、そのエピソードを取り上げて述べてもよい。

<参考文献> ・新・基本保育シリーズ 社会福祉(中央法規出版) ・沖縄県および各市町村のホームページ等

授業終了時の達成目標

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について説明できる
2. 社会福祉の制度と実施体系について説明できる
3. 社会福祉における相談援助について説明できる
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明できる
5. 社会福祉の動向と課題について説明できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉 (中央法規出版)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こども家庭支援論	担当教員	仲間 優子
科目コード	310011	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要（テキストによる通信教育）／ 試験対策ポイント

保育を取り巻く社会情勢が変化し、子育てを巡る地域や家庭の状況には多様な課題が存在する。それらの状況を踏まえ、子どもの育ちや家庭への支援を充実させるために、「こども家庭支援論」では子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、それを実践するための方法、技術等について学ぶ。保育の現場で働く者が「家庭」を理解し、子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援を行う力を身につけ、実践に役立ててほしい。

- | | | |
|---------------------------|------------------------------------|------------------------|
| 1.子どもの家庭支援の意義と必要性 | 6.子どもの育ちの喜びの共有 | 11.子ども家庭支援の内容と対象 |
| 2.子ども家庭支援の目的と機能 | 7.保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 | 12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援 |
| 3.子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 | 8.保育士に求められる基本的態度 | 13.地域の子育て家庭への支援 |
| 4.子育て家庭の福祉を図るための社会資源 | 9.家庭の状況に応じた支援 | 14.要保護児童およびその家庭に対する支援 |
| 5.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 | 10.地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 | 15.子育て支援に関する課題と展望 |

【試験対策ポイント1】

地域の中での生活や施設等での生活、また施設退所後の自立に向けたひと続きの支援が求められる。それらを踏まえ、地域生活の中での支援、施設等が行う支援、その後の自立に向けた支援等について、具体的な支援の方法について説明し、要保護児童とその家庭に対する支援に必要な視点について述べてください。

【試験対策ポイント2】

保育者は様々な状況にある子ども・家庭に出会い、その状況に応じた支援を展開する必要がある。

- ① どのような状況の家庭への支援が必要となるのか例を挙げて具体的に説明してください。
- ② 支援が必要となる家庭へ対応する際に保育者に求められる姿勢について説明してください。

授業修了時の達成目標

1. 子育て家庭に対して保育士が行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解する。
2. 保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論 (中央法規出版)	試験	100.0 %	
	レポート	100.0 %	

科目名	社会的養護 I	担当教員	須藤 竜
科目コード	310012	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 1) 社会的養護の理念と概念 | 6) 社会的養護の制度と法体系 | 11) 社会的養護に関わる専門職 |
| 2) 社会的養護の歴史の変遷 | 7) 社会的養護のしくみと実施体系 | 12) 社会的養護に関する社会的状況 |
| 3) 子どもの人権擁護と社会的養護 | 8) 社会的養護とファミリーソーシャル
ワーク | 13) 施設等の運営管理の現状と課題 |
| 4) 社会的養護の基本原則 | 9) 社会的養護の支援のあり方 | 14) 被措置児童等の虐待防止の現状
と課題 |
| 5) 社会的養護における保育士等の倫
理と責務 | 10) 課程用語と施設養護 | 15) 社会的養護と地域福祉の現状と
課題 |

【試験対策ポイント1】

- ・レポート設題2の理解を深める ・「社会的養護」の意味を理解すること(私見も含める)
- ・テキストを参考に、社会的養護の基本理念・基本原理を理解すること

※基本原理を箇条書きで済ませるのではなく、基本原理の説明も簡潔に触れること

【試験対策ポイント2】

- ・改正「児童福祉法」の経緯と改正内容などについて理解する
→テキストのみでなく、インターネット等を活用し、理解を深める
- ・「新しい社会的養育ビジョン」の内容を理解する
→テキストのみでなく、インターネット等(特に、厚生労働省、こども家庭庁等のホームページ)を活用し、理解を深める
- ・社会的養護の基本理念について理解を深める
- ・社会的養護の体系(施設養護、家庭養護)について学習すること
- ・テキストや参考文献等から得られた情報について整理すること
- ・重要キーワードについて、かみ砕き文章化を試みる
- ・テキストや参考文献等の引用(ケースによるが、一般的におおよそ10文字程度は認められる)は、
しっかりと「」でくくること

※テキストや参考文献等の丸写しの場合は、再提出となる可能性が高い

※引用したテキストや参考文献等は、必ず最文末に明記すること

授業終了時の達成目標

- | | |
|---|--|
| 1. 社会的養護の歴史の変遷について理解する | 5. 社会的養護における児童及び家族再構築に向けての援
及び児童の自立支援について理解する |
| 2. 社会的養護(養育ビジョン)の意義について理解する | |
| 3. 社会的養護と児童福祉の関連性について理解する | 6. 社会的養護における支援者としての役割と支援の在り方
について理解する |
| 4. 社会的養護における制度や権利擁護を踏まえた実施体
制等について理解する | 7. 社会的養護における現状と課題を理解する |

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ⑥ 社会的養護 I (中央法規出版)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	保育の心理学	担当教員	赤嶺 遼太郎
科目コード	310013	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

乳児期は人生の出発点絵あり、人間が一生のうちで最も成長する時期である。そのため、個々の発達に合わせた受容的で応答的な関わりが大切である。乳児保育の現状や課題を理解し、3歳未満時の発達を踏まえた保育内容と保育者の役割について学んでいく。

【試験対策ポイント1】

テキスト「保育の心理学」第8講、第9講を参考に、運動が社会性の発達とどのように密接に関連しているか具体的に述べるとともに、社会性が発達する上で必要な保育者の関わり方について述べること。

【試験対策ポイント2】

テキスト「保育の心理学」第11講を参考に、こどもが一次的ことばを獲得する上で必要な保育者の関わり方についてまとめ、具体的にどのような援助が可能かについて述べること。

【試験対策ポイント3】

テキスト「保育の心理学」の第15講を参考に、ヴィゴツキーが考えた「生活概念」「科学的概念」「発達の最近接領域」に触れてまとめること。

授業終了時の達成目標

乳幼児期のこどもの発達の過程について基礎的な知識を習得し、保育の意義を理解する。
 こどもの発達は環境との相互作用であるということを理解する。
 非認知能力(社会情動的能力)を育むには何が必要なのかを理解する。
 保育者としてこどもとの適切な関わり方を理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 保育の心理学	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもの理解と援助	担当教員	高村 滋人
科目コード	310014	授業形態	面接
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

- 1, 「保育における子ども理解の意義」「子どもに対するかかわりと共感的理解」
・保育所保育指針と子ども理解(演習)・保育における共感的理解(演習)
- 2, 「子どもの生活や遊び」「保育の人的環境としての保育者と子どもの発達」
・乳幼児の生活と乳幼児期の遊び(演習)・子どもの発達と保育者の役割(演習)
- 3, 「子ども相互のかかわりと関係づくり」「集団における経験と育ち」
・子ども相互のかかわりを生み出すもの(演習)・遊び集団の成立過程(演習)
- 4, 「発達における葛藤やつまずき」「保育の環境の理解と構成」
・葛藤やつまずき(演習)・子どもと環境(演習)
- 5, 「環境の変化や移行」「子ども理解のための観察・記録と省察・評価」
・環境の変化や移行に影響する要因(演習)・保育における「子ども理解」とは(演習)
- 6, 「子ども理解のための職員間の対話」「子ども理解のための保護者との情報共有」
・保育における対話と協働(演習)・保育所保育指針等に見る保護者との情報共有(演習)
- 7, 「発達の課題に応じた援助とかかわり」「特別な配慮を要する子どもの理解と援助」ほか
・個人差と発達過程(演習)・特別な配慮を要する子どもとは(演習)・幼小接続期における学びの連続性
- 8, 「まとめ」「テスト」

授業修了時の達成目標

1. 子どもの発育・発達について理解し、保育における子どもの理解と援助の在り方を学ぶ。
2. 子どもの健やかな成長を目標とし、保育の専門性をもった援助方法の実践を理解し、実践する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 子どもの理解と援助	スクーリング	100.0%	

科目名	乳児保育Ⅰ	担当教員	宮川 名子
科目コード	310021	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も成長する時期である。そのため、個々の発達に合わせて受容的で応答的な関わりが大切である。乳児保育の現状や課題を理解し、3歳未満児の発達を踏まえた保育内容と保育者の役割について学んでいく。

1. 乳児保育とは
2. 乳児保育の基本
3. 多様な保育の場から捉える乳児保育の現状と課題
4. 乳児保育における保育内容
5. 0歳児～3歳児の発育・発達
6. 乳児保育における生活(食事・排泄)
7. 乳児保育における生活(睡眠)
8. 乳児保育における生活(着脱・清潔)
9. 乳児保育における生活の流れと健康・安全
10. 乳児保育における遊び
11. 乳児保育における計画と評価
12. 乳児保育における連携・協働
13. 保育の営みと乳児保育における生活環境(0歳児)
14. 保育の営みと乳児保育における生活環境(1歳児)
15. 保育の営みと乳児保育における生活環境(2歳児)

【試験対策ポイント】

解答は十分な分量となるようにし、第5章「0歳児～3歳児の発育・発達」、第4章「乳児保育における保育内容」、第6章「乳児保育における生活」は特に熟読しましょう。また乳児保育に関するニュースや新聞などにも十分目を通し、自分の考えを述べられるようにしておくことも重要です。

授業終了時の達成目標

- ・乳児保育を取り巻く社会的状況と課題を把握する。
- ・3歳未満児の発育・発達をふまえた援助やかかわりが十分できるようにする。
- ・保護者との連携・協働のあり方を理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ ワークで学ぶ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ みらい	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもと環境	担当教員	小波津 優也
科目コード	310015	授業形態	面接
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

子どもの成長と発達にとって重要となる環境と保育者の繋がりを知り、子どもに必要な環境設定についての知識を習得する。

また、自身が育ってきた環境と現在の環境を比べ、どのような変化があり、どのような環境が求められているのかを考える機会とする。

授業終了時の達成目標

- ・「環境」の領域を学ぶことで、子どもの成長と「環境」の繋がりを理解する。
- ・子どもにとってより良い環境構成の在り方を習得する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
こどもの育ちと教育環境	スクーリング	100.0%	

科目名	こどもと人間関係	担当教員	山本 雅子
科目コード	310016	授業形態	面接
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

保育所保育指針における 5 領域に位置づけられる領域「人間関係」は、幼児期の発達において非常に重要なものである。

本科目では、以下について学ぶことを目的とする。

1. 幼児教育の基本
2. 乳幼児期の発達と人間関係
3. 子どもと保育者の関わり
4. 遊び、生活を通して育つ人との関わり
5. 個と集団の育ち
6. 人との関わりを見る視点
7. 現代の保育の課題と人間関係

授業終了時の達成目標

- ・子どもの発達について理解し、保育者として適切な関わりについて考えることができる。
- ・子どもだけでなく、保護者、同僚者との人間関係について、自分なりの関わりを考えることができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新保育講座8 保育内容「人間関係」	スクーリング	100.0%	

科目名	こどもと表現 I	担当教員	中村 美和
科目コード	310017	授業形態	演習
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	8コマ		10時間

授業概要（スクーリングによる通信教育）

1. 幼児教育の基本
2. 乳幼児期の発達と表現
3. 生活の中にあるものをあじあい、感性を養う
4. 自然やものの美しさに触れる～感性を身につける
5. コミュニケーションとしての表現
6. 保護者が支える表現
7. 子どもの豊かな感性と表現
8. 子どもの豊かな感性と造形表現
9. 領域「表現」の現代的課題と新たな試み

音楽表現を通して（実技演習）

手遊び・歌遊び・オペレッタ（表現の楽しさを知ろう）
 オペレッタで舞台作成、衣装作成を通して表現活動をする

教科書・教材 ※講師使用

領域 表現
 無籐隆 監修 浜口順子 編者代表（萌文書林）
 手遊び指遊び歌遊びブック①②（ひかりのくに株式会社）

授業修了時の達成目標

表現を支える保育者として子どもが始めたことを大切に受け止め、共に感じ共に楽しむ人として関わる。
 様々な表現に興味や関心があり、表現の楽しさを知っている。
 子どもの姿を丹念に捉え、豊かな感性を育む環境をつくり、心が動き表現する喜びをあげ、多様な表現が自由に行き来する生活を創ることが出来る保育者を育む。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	こどもと造形 I	担当教員	平岡 昌也
科目コード	310018	授業形態	面接
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

【2 日間の授業全体を通じた概要】

多様な技法や様々な色彩を用いた制作を通じて芽生える、自身の豊かな感性に気づく機会とする。

2 日間の経験を踏まえ、こども達の造形表現や感性の良き理解者となるよう、基礎理論や指導法を学習し体験する。

〈内容〉

1 幼児の造形表現の意義

2 造形に発展する様々な 素材と表現方法 について

- ・事例紹介（保育園児の制作事例、写真で紹介
- ・制作体験（様々な描画材・素材用いた制作を体験する。
- ・鑑賞（お互いの作品を見て良いところを発表する。

3 地域環境の場と幼児の造形表現の関わり

■ 地域施設との連携

- ・事例紹介

■ 美術館との連携

- ・事例紹介

■ 行事における造形表現

- ・事例紹介（保育園児の制作事例、写真で紹介）
- ・制作体験（様々な描画材・素材用いた制作を体験する。）
- ・鑑賞（お互いの作品を見て良いところを発表する。）

授業終了時の達成目標

【授業の目的・ねらい】

表現方法や素材についての学習と体験を通じて、幼児の造形表現の意義について深く考察する。

【授業終了時の達成目標】

様々な描画材や素材を用いた造形表現の事例や、実際の制作体験を通じて、幼児の造形表現の意義を理解する。

幼児の造形表現の意義を踏まえた、表現手段や素材選びを意欲的に研究できるようになる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
幼児の造形表現	スクーリング	100.0%	

科目名	児童文化演習	担当教員	大田 利津子
科目コード	310019	授業形態	面接／印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

【スクーリング】

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 絵本論(絵本の歴史・種類・選び方) | 5. お話の小道具(軍手人形作成) |
| 2. 絵本の読み解き・読み聞かせ | 6. 沖縄の民話を再話する |
| 3. 紙芝居(特質を知る・演じ方) | 7. 沖縄の民話を語る |
| 4. 紙芝居(読み解き・実演) | 8. 試験(レポート・実技) |

【レポート】

1. 『児童文化としての沖縄の昔話』(プリント)を読む。
 - ① 児童文化の概念を知る。 ② 昔話の概念を知る。 ③ 沖縄の昔話の歴史・特質を知る。
2. テキスト『沖縄の昔ばなし 山本川恒翁の語り』を読む。
 - ① 収録された100話の昔話を読む。
 - ② 前書き「山本川恒さんの珠玉の百話」遠藤庄治(沖縄国際大学名誉教授)筆を読み、山本さんの昔話の特徴を知る。
 - ③ あとがき「山本川恒さんのこと」比嘉久 筆を読み、山本川恒さんの人生を知る。
 - ④ 沖縄の昔話の豊かさをしる。
 - ⑤ 生の声で聴く物語(昔話の語り・絵本の読み聞かせ)について考える。

【試験対策ポイント】

1. 児童文化財の種類は、配布資料の中に書かれているが、それ以外にも受講者自身が体験した物・ことについても確認する。
2. 沖縄の民話の歴史・特質を知って、県立博物館・美術館『民話の部屋』を視聴すること。
<https://okimu.jp/museum/minwa/>
3. 自分が面白いと感じた民話の中で、面白い所は、この話を誰かに伝えたいかを考察しておくこと。
4. 「民話(ものがたり)を語る」、という視点から、子どもの周りにはどんな人の声か。現代の子育て、子育ての中で、失なわれたものは何かについて考察すること。
5. 配布資料【文化財と時間・空間・仲間】も参考にすること。

授業終了時の達成目標

【スクーリング】

1. 児童文化とは何かを理解し、子どもの成長における児童文化財の役割が理解できる。
2. 保育の現場で、児童文化財を種々選択し、活用・実践する能力を身につける。
3. 児童文化財の各理論の理解と、活用技術の習得

【レポート・試験】

1. 児童文化としての昔話を理解できる。
2. 子どもの成長において、人間の生の声を聴くこと、物語を聞くことの重要性を理解し、保育に生かすことができる
3. 沖縄の言葉の歴史、昔話に関心を深め、保育の中で、語りの実践ができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
<p>【スクーリング】</p> <p>1. 子どもがおしえてくれました本当のおもしろさ</p> <p>2. 随時、プリント資料を配付します。</p> <p>【レポート・試験】</p> <p>1. 『沖縄の昔ばなし 山本川恒翁の語り』 NPO法人沖縄伝承話資料センター編</p> <p>2. 『児童文化としての沖縄の昔話』 本科目私家版資料(文責・大田)</p>	スクーリング (受講態度)	20.0%	
	(課題)	30.0%	
	(単位認定試験)	50.0%	
	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもと音楽表現 I (ピアノ)	担当教員	大城 了子
科目コード	310020	授業形態	実技
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

前半

- ・こどもの音楽的感性を育てるために、楽典などの知識を理解し、譜読みができるようにする。
- ・保育における音楽教材等の活用、音楽的環境の展開のための技術を、実践的に習得する。
- ・積極的にスクーリングに参加し、自主練習を行えるようにする。

後半

- ・読譜力やピアノ奏法の技術が更に高められるようにする。
- ・こどもの生活や行事等における歌の大切さを理解し、歌う技術の習得と弾き歌いができるようにする。
- ・積極的にスクーリングに参加し、周りと協力すると共に、音楽の楽しさを感じられるようにする。

スクーリング形態は、前半・後半共に、習熟度に応じ全体指導と個別指導を行う。

授業終了時の達成目標

音楽に関する基礎知識や技術を習得し、幼児教育現場や保育現場で役立つ幼児曲などを、ピアノで両手で弾けるようになる。

前半:試験曲(両手でピアノのみ5曲すべて) ※原則、指定教科書・教材より

- ① むすんでひらいて ② ハッピーバースデー ③ かたつむり ④ ハ長調音階 ⑤ おかたづけ

前半の基礎的な学習と、後半開始までの自主練習を踏まえ、幼児教育現場や保育現場で役立つ幼児曲などの、弾き歌いの技能を身につける。

後半:試験曲(弾き歌い3曲すべて) ※原則、指定教科書・教材より

- やぎさんゆうびん ② 一年生になったら ③ 朝のうた

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
うたえる!ひける!ピアノ曲集①	スクーリング	100.0%	